

この10年で目に頼ら
ない捜査に大きく変わ
った。世界を驚かせた日産
自動車のカルロス・ゴーン
元会長の事件や、国會議員
を約10年ぶりに逮捕したI
R汚職事件の捜査に関わっ
た検察幹部はこう胸を張
る。

担当検事が詰問抛棄品に手を加えた前代未聞の不祥事が発覚し、社会に衝撃を与えた。当時、批判されたのは、1人の検事の犯罪行為にとどまらず、事前に描いた事件のストーリーと整合する証拠ばかりを集めようとする特捜検察の体質だった。特にストーリー通りの供述調書へ署名を迫る手法は冤罪につながる恐れがあるとして改める必要が叫ばれ

た。直後に設置された法相の私的諮問機関「検察の在り方検討会議」は取り調べの可視化拡大を提言。政府は15年、裁判員裁判対象と検察独自捜査の事件で取り調べの可視化を義務付ける刑事訴訟法改正案を提出した。国会審議では、可視化対象に逮捕前の任意捜査段階や参考人が入らないことへの批判も出たが、16年に

司法制度は大きく転換した。司法取引は18年の導入以来、ゴーン元会長の事件を取り調べの可視化対象となるのは、身柄拘束中の容疑者だけだ。本人の自白にこだわらなくなつたとはいへ、外堀をしっかり埋めるため、証人となる参考人ら

など少なくとも3例で適用された。

すよ」。河井克行元法相夫妻の選舉賣收事件で、22回聴取された元広島県議の松浦幸男氏(78)は、東京地検特捜部の聴取に現金受領を否定。それでも検事から利益誘導されたり、逮捕をちらつかせられたりしながら、執拗に追及され、体調を崩したといふ。

この事件の捜査状況に詳
し別の弁護士も「可視化
していないところで罵罵雜
言を浴びせ、一部を可視化
するにしてもハーサルを
した上で最後にしているだ
けだ」と批判した。

強引聴取依然危うさ

脱自白偏重課題なお 進む可視化司法取引

大阪地検証拠改ざん10年

事件の証拠を改ざんした大阪地検特捜部の検事が逮捕されてから10年。この間、検察の独自捜査事件には取り調べの録音・録画（可视化）が義務付けられ、「供述調書至上主義」からの脱却が図られてきた。特捜部は、華々しい活躍から長らく遠ざかっていたものの、最近は司法取引といった新たな「武器」を駆使し、再び大型事件を手掛けようとなつた。地に落ちた信頼は回復できたのか。「強引な捜査は今も変わっていない」との批判も依然として消えていない。

特捜部捜査の変化	逮捕、勾留した容疑者の取り調べ全過程の録音・録画(可視化) (2019年6月に義務化)	成果や課題 自白の強要はなくなる ▼在宅捜査の容疑者や参考人は義務化外で、検察に都合の良い場面だけが可視化される恐れも
司法取引 (18年6月導入)	容疑者本人の自白に頼る必要性は低くなる。日産自動車のカルロス・ゴーン元会長らの事件など3件で適用 ▼取引に応じた人が自分の刑を軽くするために虚偽の供述をし、無実の人が巻き込まれる恐れも	

証拠改さん事件 大阪で、障害者団体向けの郵便割引制度を利用するための説明書偽造に関与したとして、厚生労働省官長だった村木厚子さんを逮捕、7月に起訴した。同年9月に無罪判決が言い渡された後、証拠品のフロントデータベースの最終更新された文書データが、検察側の捜索事件の時系列に沿って書き換られていたことが新聞報道で発覚。最高検は捜査の主手だった中田ひ彦元検事を諷諭して起訴。改さんを隠して上司だった大坪弘道元特捜部長と佐賀元明元副部長も犯人隠避罪で起訴した。いずれも有罪が確定。証拠改さん隠蔽(いんぺい)事件とも呼ばれる。

証拠改變「怒りより恐怖」

文書偽造無罪の村木さん

元厚生労働省事務次官の村木厚子さん(64)が共同通信の取材に応じ、自分が無罪となつた文書偽造事件を巡り、検察側の構図に合ひように証拠が改められたことについて「怒りというよりも恐怖を感じた」と語った。

一連の不祥事を受け、裁判員裁判事件と検察の独自捜査事件で取り調べの録音・録画(可視化)が義務付けられたが、対象が限られるため「不完全」と指摘。一(取り調べは)検事の工具での一方的な試合。誰もが供述弱者になり得る」と述べ、冤罪を防ぐには可視化を全事件に拡大し、取り調べに弁護人が立ち会う必要があるとの考えを示した。

村木さんは2009年6月逮捕された。直後から取り調べへの内容をノートに克明に記した。村木さんによると、取り調べを担当した検事は、部下に偽造を指示したという詳細なストーリーを説明した。部下の供述に基くと言われば、検事から供述調書のサインを見せられた瞬間は鉛筆のみ込んだみたいになりました。(一番つらかった)と話した。公判でこうした調書の内容は相次いで否定された。

検事に「証明書の作成日付が分かるデータが残っているはず」と聞いても「ない」の一点張りだったのに、勾留先の大坂拘置所で検察側の膨大な証拠に目を通している際、部下のフロップーディスクの存在が記され、捜査報告書を見つけた。「檢

© 北海道新聞社